事例No.	598
公表年度	H30
団体の属性	中核市
団体名	愛知県岡崎市

事例区分	公共施設管理

タグ	・公共施設等総合管理計画 ・公共施設活用 ・消防・防災

事例種類	公共施設等総合管理計画に基づく公共施設マネジメント

事例内容・タイトル

額田センター整備事業（適正化、複合化、公共施設最適化事業債・公共施設等適正管理推進事業債）

出典

公共施設等総合管理計画の更なる推進に向けた説明会に係る配布資料

公共施設最適化事業債を活用した取組事例②

愛知県岡崎市（人口38.7万人）「額田センター整備事業」

事業の概要

額田支所周辺の老朽化した5つの公共施設について、規模の適正化、複合化を図り、機能の拡充をした上で複合施設「額田センター」として整備。

事業のポイント

【課題】
- 老朽化した施設、耐震性のない施設の存在
- 他地域の施設量や利用状況と比較して施設規模が全体的に過大
- 5施設の利用動線が悪い

施設名	延床面積（㎡）
旧額田支所（未利用）	1,362.74
額田支所	784.72
額田図書館	562.35
森の総合駅	505.42
ぬかた会館	718.16
合計	3,933.39

複合化（延床面積を約50％縮減）

施設名	延床面積（㎡）
額田センター	1,975.77

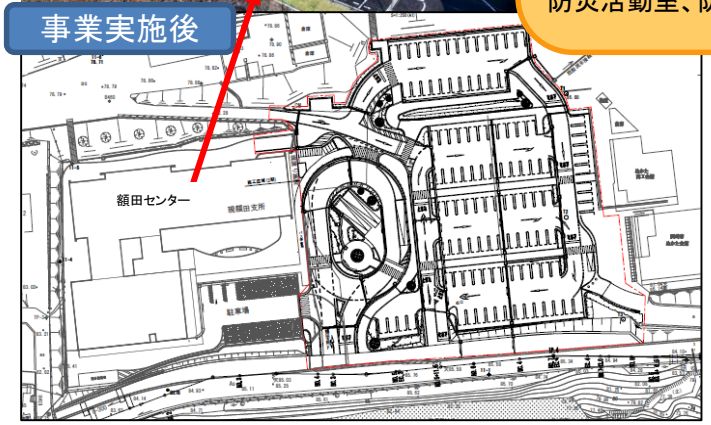
※ぬかた会館は学区住民のコミュニティー活動の拠点施設に転用予定

事業実施前



事業実施後





○新施設機能
〈行政関係機能〉
支所、福祉総合相談窓口等
〈市民交流機能〉
集会室、和室等
〈社会教育機能〉
図書館、森の駅情報コーナー
〈地域防災拠点機能〉
防災活動室、防災倉庫
等

事業実施体制

関係課長を委員とした検討部会を設置。さらに副市長を議長、関係部課長を委員とした上部会議で事業を推進。

事業の効果

○ 利用者の動線や機能の集約によって、施設の利便性が高まり、効率性が図られ、一体的な利用が可能となる。
○ 地域住民が一箇所に集まることで、ふれあいや交流が生まれ、地域の市民活動が促進される。
○ 当センターを中心とした地域自治・生活拠点、防災拠点が整備され、ランドマークとしての重要性が高まる。